

Fire Press

消防団振興事業

消防団活動を盛り上げる

平成19年7月8日、2年に1度、消防団振興事業が行われました。近年、全国的に消防団員は年々減少傾向にある中、消防団員の確保や活動環境の整備が必要とされます。消防活動を盛り上げるために家族の方の協力も重要とされ、団員家族に配慮が重要とされます。この日は団員のご家族・子ども達に地引網を一緒に引いて貰い、取れた魚を堪能。昼食をとりながら良い親睦がはかれたと思います。



第1分団に新しいポンプ車が入りました



こんにちは二宮町の皆様。私は山西、川匂地区の防災を担当している松本と申します。いつもご支援いただいている皆様にお礼申し上げます。この度、第一分団の消防車が排ガス規制の為運転出来なくなり町長を始めいろんな皆様のお力のおかげで新車導入になりました。新車導入は九月一日の防災の日に行われました。これも何かの縁だと私は感じました。当日は式典等いろいろありましたが、当日の夜すべてが終わった時、本当にほっとしました。これから第一分団は新車に一日も早く慣れ二宮町の防災の為に訓練に力を入れていきたいと思っています。それが私に出来る唯一の恩返しだと思っているからです。私は今年の3月31日をもって退団いたします。でも第一分団の熱い思いは変わらないと確信しております。最後に、二宮町消防団にお礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。

消防操法大会

第4分団出場決定！

平成20年夏季に予定されています神奈川県消防操法大会（総合防災センター・消防学校にて）に中郡を代表して二宮町第四分団が決定しています。第四分団にとっては20年前に出場して以来のことです。

町民の皆様応援宜しくお願いします。ご健闘をお祈りいたします。右記の写真は前回二宮町から出場の第五分団です。



日頃から各地域のため、二宮町のために頑張っている各分団員から消防団活動についてコメントをいただきました！



二宮町消防団長 柳川 駅司

日頃、皆様には消防団に対し、ご支援ご協力を賜っておりますことに感謝し、お礼申し上げます。

二宮町消防団は、1879年に消防器具を備えた消防体制が整備されて、名称を変え組織を変え、二宮警防団（団員431名）から、現在の五個分団78名体制となりまして、2008年の今日まで定員を下回ったことはありません。これも皆様方のご支援ご協力があったからだと思っております。全国では1952年209万名を誇ってい

た消防団員が2007年には89万2893名となっけし、消防庁は阪神大震災以後、地元で活躍する消防団員の必要性を見直し、地域防災力の低下を避けるために、女性分団、機能別消防団員制度を導入したりしております。

二宮町でも、地域の、そして家族の安心と安全を守るためには、現在の人員の確保が不可欠です。今後とも訓練を実施し、危機管理を怠ることなく組織の整備を図っていただきたいと思いますので、皆様のご理解をいただきご協力をお願いいたします。

第一分団 (川勾・釜野・越地・茶屋・梅沢)



野谷 徳浩 消防団活動を大きく分けると、3つに分ける事が出来ます。一つ目は火災や災害があったときの消火および災害救助活動です。二つ目は消火及び災害救助活動を迅速かつ、安全に行うために月1回の定期訓練や新入団員訓練、合同訓練、指導者講習及び救急救命講習があります。定期訓練は分団員の都合の良い、土曜日や日曜日の夜間に訓練を行っています。三つ目は火災が起こらないように秋、歳末、春に火災予防運動を行い、住民の皆さんに広報活動を通して防災意識の啓蒙活動を行っています。訓練及び火災予防活動の後では、分団車庫で分団員同士の語らいの場があります。消防団員はみんなボランティアで住民の皆さんと変わりありません、消防団車庫の明かりが付いているときは、声をかけてください。



原 克義 各地区から選ばれた人々が消火活動、火災予防に務める集団です。しかし何も訓練をしなければ、放水をする事が出来ません。だから月に1度週末を利用して訓練をしています。訓練は、消火栓や防火水槽を利用して、ポンプ車からの放水などを行っています。時には、厳しい時もありますが、怪我をしない事が重要だと思います。また消防活動をする事で地域に少しでも貢献出来ればと思います。興味がある方は、見学に来てください。



田津原 寿一 二宮町消防団第一分団です。山西地区を担当しています。火災の際、少しでも早く消火活動が出来よう、消火訓練等を行なっています。月一回の定期訓練と三回の車両点検を行なっています。場所はおもに、川勾神社の駐車場を借りて訓練をしていますので、応援してください。また地域の防火・防災に、少しでも手助け出来るよう、がんばってまいりますのでご指導ご協力下さい。



石塚 隆 消防団ってみなさんご存知ですか？火災が発生した時、消防署と協力しながら、現場で消火活動を行います。また、火災だけでなく、自然災害や地震などが発生した場合救助活動を行います。昼夜を問わず二宮町の住民の生活を守るため活動をしている人々によって構成された組織です。消防団は通常はそれぞれの仕事につきながらも、災害時には駆けつけて現場活動を行ったり、火災予防のため町内の巡回を行うなど、地域に密着した防災活動をボランティアでやっている組織です。災害がないことが、消防団の願いです。



亀山 貴志 私はサラリーマンで地元出身ではありませんが縁があって7年前に住まいを二宮町にかまえました。地域のために微力ながら貢献できればと思い4年前に入団しました。消防訓練は本番の火災を想定して行いますので真剣ですし、厳しい部分もありますが、何より団員が一つになるチームワークが気持ち良いです。それと地元出身の仲間ができたので地域に溶け込めたことも良かったことの一つです。第1分団にはそのような仲間が私を含めて四人居ます。皆、厳しい中にも楽しく活動しております。

第二分団 (上町・中町・下町)



福井 淳明 私の入団は、年齢的に適齢期と言う事で誘われ、特別な思いも無く入団しました。入団当初は訓練等の活動も義務的に参加していましたが、同年代の先輩団員とふれあう中で消防団活動に対する意識の高さや災害時に迅速に対応出来る心構えがあり、私の意識も変化しました。出来るだけ町民の生活を守る協力が出来れば良いと考える様になりました。消防団以外の町民にも消防団活動を理解して頂き災害に強い町になれば良いと考えます。



野原 修 私は、消防団の団員となって5年が経ちました。消防団に入団するまでは、何をするか解らず不安でした。ところが、そんな心配はいりませんでした。それは、分団の先輩方から、基本を確実に教えてもらったからです。今では、自分が後輩を教える立場になり、分かってきた事があります。仲間がいる、と言うこと。同じ分団での同期はもちろん、他の分団の同期や先輩など、消防団の団員にならなければ知り合えない仲間がいるのです。その仲間達と訓練を積み重ねて火災などに備えています。



吉川 尚宏 消防団活動と言われても町民の方にはなかなか何をしているのか分からないと思います。消防団は消防活動だけではなく、火災予防週間になると町内の見回りなどをします。台風が上陸などすると河川の氾濫が無いかの確認をしたりもします。しかし、なかなか自分たちの活動を見る機会は少ないと思います。少しでも興味を持たれましたら来年の1月11日に消防出初式がありますので一度見に来て頂ければと思います。



町田 新 私が二宮町に引っ越してきて6年、消防団に入団して4年がたちました。始めは不安でいっぱいだった私ですが、続けて行くうちに諸先輩方の指導の元、消防団のあり方や必要性を教えてくださいました。私は、この自然に囲まれた美しい二宮町を火災や災害から守り、いつまでも笑顔が絶えない二宮町を未来の子供達に残してあげたいと思っています。



原 勝弘 消防団の活動は実際の火災の消火活動だけではなく防火活動、地域の防災訓練の参加、お正月のどんど焼きの火の番など、地域に密接に関わっています。11月に開催したふるさと祭りでは消防ポンプ車の体験乗車として、小さいお子さん、親御さんを実際に乗せてラディアン裏のふれあい広場を回りました。普段乗ることが出来ない消防車に乗れて、お子さん、親御さん共に喜んでいました。地元の皆さんに喜んでもらえるのが消防団活動です。

第三分団 (元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根)



橋川 登夫 ひょんなことから消防団活動に従事することになりました。多くの人がそうでしょうが、消防や防災といってもあまりピンと来ないのが事実だと思いますし、そんなことにお金をかけるのは無駄ではないかと感じているところが大きいと思います。自分もある意味そう感じていた部分もありました。実際に災害が発生した際に地域防災の活躍をよく耳にします。そのような活動の支えあってこそ話ですが、活動に従事することでその意味がよくわかりました。多くの方に少しでも防災活動に関心を持ってもらえれば、その意義を認識してもらえらと思います。実際に被災された方々はそう感じているはずですから。



横澤 馨 入団して早6年、驚くほど早く訪れた退団を、限りある字の数でまとめるのは非常に困難である。よって、一番に感じている今の気持ちのみを語れば、自分が消防団に属し係わってきた全ての人に感謝である。そして、未来にこの団体が存続するかぎり自分と同じ気持ちの持ち主が増え続けるであろう。少期間であったが、先人そして後に続く係わった人々は全て自分自身の財産である。おそらく、今後も末永くの付き合いが続くと確信する。



小島 隆 消防団に入団して5年になります。いつどこで起こるか分からない火災等に備えた日頃の訓練を重ねていって地域防災に対する意識が高まり、使命感を持って活動することの重要性を感じています。消防団員としての規律の遵守など厳しい部分もありますが、それぞれ違う職業を持つ団員仲間との連帯感があり活動に負担を感じないことが今まで続けられた要素だと思っています。今後も消防団活動を通じて、地域に貢献していきたいです。



遠藤 雅彦 消防団に入団して、多分周りの人々は、酒ばかり飲んで、地元での交流が必要以上に強くなった。と思っている。正直な所、それはそれで否定はしない。ただ、訓練を初めとする消防団活動が一年間を通して、こんなに多岐にわたってある地域も近隣には聞いたことが無い！と自分は思う。火を消してなんぼの「消防団」訓練無しでは決して実行することの出来ない行動、気配り、家族には少し不自由を掛けるかもしれないが、そこで培った経験と共に仲間の結束は、この歳になって決して得ることの出来ない貴重な友情。これは経験した者にしか与えられない称号だと確信する。



内田 一彦 消防団に入団して約2年の月日がたちます。入団する前は「消防団」が存在する事すら知りませんでした。要は、全てが本職の人達だと思っていたのです。消防団の活動を経験して感じた事ですが、団員が皆、地域の人々の事を心配し、大切に考え、訓練や様々な活動をしているという事です。それぞれに仕事を持ち、家庭もあり、決して楽ではないはずなのに、あたりまえの様に行動している姿にとっても感動しました。私も先輩達を見習って、団員としてははずかしくない様にがんばっていきたくと考えています。



第四分団 (中里・百合が丘1丁目)



相原 智明樹 思い起こせば十年前、第四分団員となり何も分からなく戸惑いながらの活動から始まりました。しかし、諸先輩方の温かい指導・OBからのバックアップ、そして地域の皆様のご協力があって無事にここまでやって来られたことを心から感謝します。また、分団に入ったことによりたくさんの仲間が増えました。普段の生活の中では決して手に入らない大事な仲間たちがこの十年間の一番の収穫かもしれません。



西山 哲也 私は、父親が消防団員をやっていた関係で消防団というものは小さい頃から身近な存在であり、地域に根ざした活動をしており、いずれは自分も話があげばと思っていました。消防団は、消火活動や訓練といった大切な実働の活動以外に、職場は違っても同じ地域に住む同世代の仲間として良きコミュニケーションを図れる団体でもあります。また、消防団OBで地域活動をしている方が多く、消防団は地域づくりにも大切な活動だと思っています。



石間 勲 まさか自分がボランティア活動?と思いつきながら入団し、早8年が過ぎようとしています。今では分団にも溶け込む事ができ、消防活動をきっかけに地域に顔見知りも増えました。月に数回の訓練を行い、災害時には地域と消防署との連携役を担っています。災害はいつ起こるか分かりません。地域の災害ボランティアとして一緒に活動してみませんか?



内海 由貴 私は親の自営業と一緒に営んでおります。父親も団員経験者であり活動には多少、認識があって、入団当初は知り合いも多く不安はありませんでした。消防団はボランティア精神の下で活動していますが、やはり有事・訓練等消防団活動で本業や自分の時間を割いて行うには本当に厳しいことです。それでも仲間励まされ同士の頑張っている姿を見ると勇気づけられます。そこまでする消防団には大切な事があります。そんな消防団が好きです。



野地 剛 私が第4分団に入団してから、早くも7年目に突入となります。ついこの前まで、分からないことはすぐ先輩たちに聞いていましたが、あつという間に質問を受ける立場になってしまいました。われわれの活動の中で一番重要である《予防活動》に励んでいる結果が火災発生を減らしていると感じ、また不幸にも災害が発生したならば、日頃の訓練の成果を発揮できるように、これからも団員一同力を合わせ頑張っていきたいと思います。



第五分団 (一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目)



渡邊 恒文 十三年前、緑が丘に越してすぐ当時の自治会長から消防団の話いただき、入団を決意しました。当初誰一人知らない中で活動は不安でした。しかし、消防活動の交流の中で、かけがえのない仲間となっていく、分団内だけでなく、他分団の多くの人と知り合いになれたことは、貴重な財産を得ることが出来たと思います。そして、これが消防団活動の大きな魅力ではないかと思えます。消防団は、まだまだ知名度の低いことも事実です。今後本来の活動に加え、積極的な広報活動も重要な役割だと思えます。



橘川 史朗 十年前の幼なじみからの一本の電話が私の消防団活動が始まりでした。それ以来本番火災での消火の機会はそのありませんが、特に3年前に出場した操法大会は、消火活動に必要な基本動作を身につけることの大切さ、皆が気持ちを合わせて協力しあうことの大切さを強く感じる貴重な経験でした。いつ起こるかもしれない火災、災害で少しでも力になれるよう、今後も日頃の訓練をしっかり行い、信頼関係を築いていきたいと思っています。



関野 浩行 私が消防団に入団してから5年が過ぎ、長かったようであつという間の5年間でした。消防団活動は会社でもボランティアとして認めて頂いている事もあり率先して参加させてもらっています。通常の生活では知り合えなかった地域の仲間が増え、知り合う事ができた事や、色々な行事に参加する事で二宮町に詳しくなりました。また、神奈川県消防ポンプ車操法大会に参加した時に通常の訓練を行ったことや、普通救命講習や色々な訓練等を行い、普段できない事も数多く体験でき良かったと思えます。これからは地域のため、自分のためにも頑張る活動を行いたいと思えます。



橘川 日出夫 私は消防団に入って三年目の会社員ですが、消防団に入った事により普通の会社員では体験、習得できない事があると思えます。消防車から放水する事はもちろんですが、公共の場に設置してあるAEDの使用法を含めた心肺蘇生法講習を受け、普通救命講習修了証を習得できました。また消防団に入るまでは自分の地域には無関心でしたが、同じ地域の年上の人も交流ができ地域に対して自然と関心を持つ様になりました。今後は技術に磨きをかけ地域に貢献していきたいです。



上里 泰正 私は今年四月にお誘いをうけ入団しました。先輩団員の方々の指導の下、礼式訓練から始まり放水訓練、また、火災予防活動などを教えていただいています。入団はまだ半年で、未熟な点が多々ありますが、地域の安全と安心を守るため、活動技術を向上できるように、これからも訓練、活動に励んでいきたいと思えます。



消防団員募集

「自分たちのまちは、自分たちで守ろう。」

20代・30代の男子で分団活動に協力してくれる方を募集しています。より多くの方に消防団活動を経験してもらい、地域防災の一翼を担っていただきたく願います。任期・活動内容は各分団ごとにこととなります。



問い合わせ 消防本部 消防課 ☎72-0015

- 第一分団 (川匂・釜野・越地・茶屋・梅沢)
- 第二分団 (上町・中町・下町)
- 第三分団 (元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根)
- 第四分団 (中里・百合が丘1丁目)
- 第五分団 (一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目)

消防団は、通常は自らの仕事を 持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域の人たちのため、社会のために活躍されている人たちの集まりです。

総合防災訓練【平成19年11月17日】

近年に大規模災害が予測されております。大規模災害等に備えた対応をする為に町・消防組織・地域住民の相互助け合いが被害を軽減するとされています。これは、消防、警察、自衛隊などが本格的に機能する前段階などにおいては、住民自らが主役となって防災活動を行うことの重要性を示しています。特に消防団は、市町村に設置されている組織であり、防災面での十分な訓練と経験を積んでいることから、それぞれの地域でリーダーシップ

をとり、自主防災組織や住民に対する訓練指導、防災知識の普及啓発を行うことが期待されます。

日頃から消防団を中心に行政機関と住民による自主防災組織との緊密な連携が被害を最小限に抑えられます。これは、消防、警察、自衛隊などが本格的に機能する前段階などにおいては、住民自らが主役となって防災活動を行うことの重要性を示しています。



仮設トイレの設置



避難拠点基地、二宮高校にて



救出救助訓練…ジャッキ・パールを使用した訓練

出初め式【平成20年1月13日】

平成20年1月13日(日)AM10時よりラディアン北側の「ふれあい広場」にて無事に出初式が挙行されました。この日は近年にない寒い日に来賓や観客も寒さに震える日でしたが、消防団員は日々の訓練や厳しい規律の下、寒さも感じさせず消防団員として凛とした姿を見せられたと思います。



今昔記 谷津地区在住 松本市太郎氏

昭和29年、まだ戦後色濃いこの年に第三分団は、町内随一とうたわれた高性能のポンプ車を装備し今の地に産声をあげた。

その第三分団の歴史を語るに避けて通れない大先輩がいる。その松本市太郎さんに今回お話を聞く事ができた。松本さんは、第三分団発足時に入団し、昭和46年3月に退団するまで長期に亘り防災の第一線に尽力してきた。この在籍記録は第三分団の50余年の歴史、歴代延べ団員218名の中において突出しており、塗り替える事の困難な金字塔である。松本さん曰く、「当時は自動車免許を持っている者も少なく、柳川（元町長）に辞めたらだめだ、と釘を刺されていてね」と謙遜する。

町の人口が1万5千を下回るこの時代だが、消防団に属すは義勇的な風潮があり、二十人の団員枠に順番待ちの人気がある為、二年を1サイクルとする四年の任期だったとか。その中に於いてこの長期はやはり人望だったのであろう。

多くの火災や災害現場で活躍し、防災に努めた後任の消防団員に多くを教え、第一線を退いた翌年の昭和47年二宮町に消防署が開署した。

夕方の散歩と自宅前での日向ぼっこを今の楽しみとしている松本市太郎さん御歳93歳、まだまだお元気である。17年の歳月を地域防災に務めてきたその目の奥にはこの町に対する愛を感じる。